●発行／豊岡市　●編集／政策調整部秘書広報課
市長室☎0796-23-1111 FAX23-1124
FAX24-1004
〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL http://www.city.toyooka.lg.jp
（総合支所）
・城崎☎32-0001
・竹野☎47-1111・日高☎42-1111
・出石☎52-3111・但東☎54-1000

豊岡偉人伝 7

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。
その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課☎23-1160

怒らず・焦らず・恐れず　昭和の実業家　太田垣士郎（おおたがきしろう）

「黒部の太陽」
1968年に公開された映画で、世紀の難工事と言われた黒部川第４発電所ダム（富山県立山町）建設の苦闘、特にトンネル工事を描いたものです（2009年にはドラマ化されました）。この工事を指揮したのが**太田垣士郎**です。

太田垣士郎（1894～1964）

城崎町出身　贈位四位・勲二等

太田垣士郎は、明治27年城崎町湯島で、開業医の父・隆準（りゅうせつ）の長男として生まれました。小さいころは手の付けられないほどのガキ大将でした。

明治38年、「本をとじる鋲（びょう）」を、偶然の出来事で喉の奥に詰まらせ、手を尽くしましたが喉に引っ掛かったままでした。その後は病弱になり、学校も欠席が続きました。

明治41年に豊岡中学校に入学し、休学していた明治44年の10月に、激しく咳き込んだ拍子に鋲を吐き出し、次第に元気を取り戻しましたが、一生血たんが出るなど苦しみました。その後、熊本第五高等学校、京都帝国大学に進みました。

大正９年に日本信託銀行に就職しましたが、大正14年には、阪急鉄道に転職し、阪急を築き上げた小林一三（いちぞう）のもとで、出札係・阪急百貨店員等、幅広い仕事をこなしました。百貨店時代に、京都東福寺尾関老師（きょうとのとうふくじおぜきろうし）を知り、目先の利益にとらわれず果敢に挑戦する生き方を学びました。

昭和18年に阪急と京阪が合併し、京阪神急行電鉄となり、昭和21年に社長に就任しました。敗戦で全てを失い、最も困難な時期でしたが、日本が復興するには、大衆輸送交通が不可欠という使命感を持って捨て身で取り組みました。

昭和26年、日本発送電力（株）が全国９ブロックに分割され、太田垣氏はその一つの関西電力（株）の初代取締役社長に就任しました。当時の電力事情は、停電は日常茶飯事であり、お客さんに安心して安定した電力を供給することが一番の課題でした。太田垣氏は、積極的に電源開発に取り組みました。社長に就任した年に丸山水力発電所の建設に着手。当時の水力発電所の発電量１～２万キロワットに対し、丸山発電所は12万５千キロワットと、その規模の大きさが分かります。

▲黒部ダム建設中の太田垣氏（中央）

昭和31年に、激増する電力需要に対応するため黒部川第4発電所（くろよん）の建設に着手しました。当時500億円を超す巨費と延べ１千万人の労働力を投じ、昭和35年に世紀の大事業といわれた黒部ダムが、昭和38年には発電所が完成しました。発電量は25万キロワットで日本最大級でした。この工事は自然環境を守るため、トンネル工事を主体とするもので、多くの困難がありましたが、それを次々と乗り越えました。中でも大町トンネルの大破砕帯（岩盤が粉々に壊れた地層）の突破は、その最たるものでした。くろよんの完成により電力の安定供給が確保されました。

そのほか、昭和31年に関西経済連合会会長、昭和36年に電気事業連合会会長、昭和37年に日本体育協会財務委員長（東京オリンピック資金調達責任者）、昭和38年に総理の諮問機関近畿圏整備審議会会長を歴任しました。

故郷城崎温泉の発展を願い、温泉街、円山川、日本海が一望できる場所にロープウェイ建設を発案し、関西電力（株）、関電産業（株）、阪急電鉄（株）、城崎町、地元有志により昭和38年に城崎温泉ロープウェイが完成しました。

▲太田垣士郎資料館

平成14年に、ロープウェイのゴンドラが新調されるのを機に地元住民によって「太田垣士郎資料館」が整備されました。ロープウェイ乗り場の横にある資料館前には、太田垣氏の銅像が建てられています。資料館内には太田垣氏が書き残した書物や写真などが展示してあります。昭和39年に70歳で逝去し、城崎町湯島にある墓に眠っています。